



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

'00 6月号

絵画に描かれた

平塚大空襲



『平塚大空襲 - 学徒動員・15歳の死と生 - 』（部分） 2280×3200 平野哲男氏（東京展会員・日本美術会会員）

昭和20年7月16～17日、平塚は米軍による激しい空襲を受けます。この空襲により、当時、平塚第二海軍火薬廠に学徒として動員されていた茨城県立麻生中学校生徒（永峰 光君）一人が焼夷弾の直撃を受け死亡します。亡くなった生徒の友人であり、一緒に動員されていた平野哲男氏は、その時の印象を、「平塚大空襲 - 学徒動員・15歳の死と生 - 」と題し描きました。

この作品は、1999年3月開催された「日本アンダパンダン展＜20世紀の戦争と人間＞展」に出展展示され、高い評価を受けたものです。この度、この絵が平野哲男氏のご好意より博物館に寄贈されることになりました。6月16日から始まる寄贈品コーナー「平塚大空襲」の展示期間中にご紹介したいと思います。

村井弦齋(下)

明治16年正月、弦齋は、立憲改進黨の機関雑誌「明治協会雑誌」を発行する「明治協会」の会員になります。明治協会は、大隈重信、小野梓、田口卯吉、前島密、矢野文雄らの発起で設立されたもので、会員相互の知識を交換することを目的としていました。したがって、弦齋は、会員に「明治14・15年の銀行紙幣流通高」などの情報を求めるとともに、定期的に行われる会員の談話会に参加するなどして、明治協会と積極的に深い関わりを持ちます。しかし、6月にはこの会を退会していました。退会の理由は、4月にノイローゼとなり、5月から熱海・箱根の温泉で治療するための療養生活に入ったからです。

回復後の8月、弦齋は再びノイローゼになります。弦齋は何か一つのことに全力を集中すると、色々なことに神経が行き届かない生真面目な性格と考えられます。青年期にありがちな不安定な精神状況と相俟って、この時期、明治元年以来の外国貿易に関する統計書の編さん事業が中絶してしまい、それがノイローゼになる原因でした。

健康を回復した弦齋は、翌17年7月、「経済学実地研究」をこころざし渡米を決意します。8月1日、215円という所持金の他、脇差や短刀各一振、鐔、小柄二本を持参し横浜港から米船紐育号で出発します。脇差などは、滞在費が不足した場合、渡航先で換金するための品であったと考えられています。9月、サンフランシスコの弦齋から最初の手紙が届きます。手紙には「遊米雑記」を添えていると書かれていますが、残念なことに、現在残っていません。したがって弦齋が滞米中に何をしていたよくわかりません。従来、弦齋は滞在中ハウスキーパーや煙草工場の職人となって苦学していたといわれます。しかし、語学力があり、1年間（翌18年9月帰国）という短い滞在中で、当時としては多額の所持金を持って渡米していることから、滞在中は何らかの調査活動を行っていたことが想像されます。

明治19年暮れ、弦齋は遊歴学者（地方の名家に寄宿して学問を教え、喜捨を得て生活する人）となって栃木県合戦場に滞在します。そこで、浪平という小学生に漢学を教えます。この浪平が、後に日立製作所を設立する小平浪平その人でした。後日、小平浪平は日立製作所を設立するきっかけは、弦齋の教授によると述懐しています。

外国語学校を退学してからの弦齋は、北海道・東北の旅、渡米、遊歴学者となって、さまざまに見分を広めます。その時の体験と経験が、後に弦齋の著作作品に大いに寄与したことはいうまでもありません。明治協会での情報は論文『我邦今日の急務を論ず』に、渡米先のサンフランシスコでの体験は、懸賞論文『内地雑居の利

害及び其実施の方法』に結実します。そして、明治20年25歳のとき、「郵便報知新聞社主矢野文雄（龍溪）に一文を送り」認められて郵便報知新聞の（記者）客員となります。そして、東京専門学校（後の早稲田大学）に入学して本格的に文学の道を志します。翌21年4月から、弦齋最初の小説『加利保留尼亞』が雑誌「日本之時事」に連載されます。この小説も渡米体験が元となって執筆されたといわれています。

弦齋が小説家を志すきっかけを創った矢野文雄は、郵便報知新聞社長であると同時に当代随一の政治家（立憲改進黨）・小説家として、当時すでに名を馳せた人物でした。明治16・17年、相次いで発表した彼の政治小説『経国美談』は、当時のベストセラーです。したがって、弦齋が『経国美談』を読み、その思想に共感を得ている、と考えて間違いのないところです。

弦齋は、明治16年、明治協会会員として矢野文雄とはじめて出会います。その時、話をしないまでも、以後の弦齋の小説作品を見ると、「小説とはどうあるべきか」という矢野の思想と一致する部分が多々あります。弦齋の小説作品には、矢野文雄の影響を看過できません。小説を書き始めてからの弦齋は、「小説とはどうあるべきか」という矢野の思想の忠実な継承者・実践者になります。その継承と実践の結果、当時、最も多くの人々に読まれる小説家になったといえます。弦齋と矢野文雄との関係は公私の別無く、弦齋が亡くなるまで脈々と続きます。この弦齋と矢野文雄との関係を、弦齋の父清が幼くして家督を継いだ弦齋に対する親子の情と同じか、それ以上のものであると考えることもできます。

今日、人と人との出会いが希薄になり、何か味気ないものになっています。弦齋展を通して、「親子とは」、「出会いとは」、「小説とは」、などについて改めて考える機会とします。



晩年の村井弦齋

2年めを迎えて本格始動！

来館者の強い味方

「展示解説ボランティア」

昨年4月、博物館では始めて公募によるボランティアを募集いたしました。名付けて「展示解説ボランティアの会」といいます。応募下さった市民の皆さんは、全部で5名。当初、博物館のスタッフは、大勢の市民の皆さん方がご応募くださるのではないかと、密かに期待をしておりました。ところが、少ない応募に大変意外に感じたものです。しかし、博物館としても公募形式のボランティアは、初めての経験でした。したがって、今後、どのようなスケジュールを経て「展示解説ボランティア」として、ご活躍願えるのか、甚だ心許ない状況にありましたから、ご応募いただいた方々に博物館にお集まり願ひ、1回目の会を開催したとき、応募された方が少なくてヨッカッタと実はホッとしたものです。

その後、応募された皆さんとの話し合いの中で、例会を月2回持つこと、できるだけ早く実際の展示解説の場に登場できるよう研鑽を積むことなどが話し合われました。そして、各展示コーナーの「ねらい」や「どのような展示物」から展示が構成されているかなどを各担当学芸員から聞く勉強会を始めました。勉強会に出席するボランティアの方々の熱心さは、しばしば、担当する学芸員の間でも話題になり”心を引き締め事に当たらねば”と考えたものです。勉強会の合間を縫って、夏期特別展「自然探偵・野道を行く」、秋期特別展「相模の道祖神」で、試みに「解説ボランテ



2階展示室入口でお待ちしています

ィア」として助力をお願いいたしました。また、ボランティアの会活動を広く市民の皆様方に知っていただくため、「ニュース紙」を発行し、さらに、「広報ひらつか」にも会が紹介されました。

年度末、いよいよ次年度当初から「展示解説ボランティア」として、実際に行動していただくことが決まりました。そこからがまた大変な作業が待っていました。「活動マニュアル」の作成。「ボランティアの会」の会則作成。実際に活動を行っている他館（国立科学博物館・神奈川県歴史博物館）へ出かけ見聞することなども、会として、あるいは会員が個々にそれぞれの館に向いて行いました。「解説ボランティア」の存在が一目で入館者にわかってもらうため、ユニホームを作ることも決まりました。

年度が替わり、この四月から実際に「展示解説ボランティアの会」が始動始めました。4月から展示室で、黄色の「スタッフ・ジャンパー」を着た人がいます。この方が、「展示解説ボランティアの会」の方です。是非是非、気軽に声をお掛けください。「解説を聞いて良かった」と、思われるに違いありません。



新規会員の研修風景(5/23)

夏期特別展「よみがえる村井弦斎 - 明治の実用小説家」7月7日より特別展示室にて開催します

博物館カレンダー

2000年6月

1	木	☆ 寄贈品コーナー「自然新資料」 (～6月4日)	展示室
2	金	古文書講読会	講堂
6	火	★ 全館燻蒸(6月15日まで休館!)	全館
10	土	地質調査会	野外
		天体観察会「水星」	野外
		◎ 漂着物を拾う会	虹ヶ浜
11	日	○ みんなで調べよう「カタツムリ」	野外
16	金	☆ 寄贈品コーナー「戦災と空襲」 (～9月9日)	展示室
		古文書講読会	講堂
18	日	◎ ろばたばなしの会	展示室
		相模川の生い立ちを探る会	野外
20	火	展示解説ボランティアの会	特研究室
21	水	展示解説ボランティアの会	特研究室
		裏打ちの会	科学室
22	木	石仏を調べる会	特研究室
		展示解説ボランティアの会	特研究室
23	金	古文書講読会	講堂
24	土	空襲と戦災を記録する会	特研究室
		地質調査会	科学室
25	日	○ こども観察会「アオバト」	照ヶ崎
		古代遺跡を探す会	科学室
28	水	地質調査会	特研究室

☆寄贈品コーナー「平塚大空襲」

第二次世界大戦のさなか、わたしたちの町に起きたこの歴史的な事件に関わる資料を展示します。

●6月16日(金)～9月9日(土) ●展示室1階

☆プラネタリウム「さよなら、お月さま」

月の満ち欠けや月食について、ストーリーとともに紹介します。

●土・日曜日の11時と14時 ●1人100円

◎漂着物を拾う会

●6月10日(土) 9時半～11時 ●虹ヶ浜海岸 ●自由参加ですが、初めて参加される方は往復ハガキで申し込んでください。集合場所等案内をお送りします。

◎ろばたばなし

展示室民家で相模地方の伝説と昔話を聞きますか?

●6月18日(日) 13時30分、15時 ●1階展示室民家

★休館のお知らせ 6月4日～15日の間、博物館資料保存のための燻蒸作業を行うため、博物館は休館します。ご了承ください。

2000年7月

2	日	地質調査会	野外
6	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
7	金	古文書講読会	講堂
		☆ 特別展「村井弦斎展」 (～8月31日)	特研究室
8	土	◎ 漂着物を拾う会	虹ヶ浜
		☆ プラネタリウム「ピカちゃんとおりひめさま」 (～7月11日)	プラネ室
9	日	○ みんなで調べよう「カタツムリ」	科学室
12	水	地質調査会	特研究室
13	木	石仏を調べる会	
14	金	古文書講読会	講堂
16	日	◎ ろばたばなしの会	展示室
		民俗探訪会「高来神社船祭り」	大磯
		地質調査会	科学室
		天体観察会「皆既月食」	屋上
19	水	裏打ちの会	科学室
		相模川の生い立ちを探る会	富士山
21	金	古文書講読会	講堂
22	土	空襲と戦災を記録する会	特研究室
		☆ プラネタリウム「キヤラシークールズ」 (～9月3日)	プラネ室
23	日	古代遺跡を探す会	野外
26	水	◎ 自由研究相談会	科学室
27	木	石仏を調べる会	特研究室
28	金	古文書講読会	講堂
		○ 自然観察会「相模湾の海鳥」	相模湾
		◎ 星を見る会「夏の星空」	屋上
29	土	天体観察会「スターウォッチング調査」	屋上

○こども観察会「アオバト」

丹沢から大磯町照ヶ崎海岸に飛来するアオバトを観察します。

●6月25日(日) 8時～11時 ●大磯町照ヶ崎 ●6月10日までに往復ハガキで申込み下さい。小中学生および保護者に限ります。30名まで。

夏期特別展予告

時代の先駆者

「よみがえる村井弦斎—明治の実用小説家—」

会期：7月7日(金)～8月31日(木)

場所：博物館特別展示室

平塚に居住し、明治から大正期に活躍した大衆小説家村井弦斎ゆかりの品々を展示します。お楽しみに!

行事の参加方法→☆：展示(無料)・プラネタリウム(観覧料) ○：申込制 ◎：自由参加 無印：年間会員制

あなたと博物館 25巻 3号 通巻281号 発行 平塚市博物館 2800

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 TEL:0463-33-5111 FAX:0463-31-3949